

令和3年度 お月見歌会 応募結果

一般応募 44名

| | |
|-----|-----|
| 高山市 | 32名 |
| 飛騨市 | 2名 |
| 下呂市 | 6名 |
| その他 | 4名 |

高校生応募 17名

| | |
|--------|-----|
| 飛騨神岡高校 | 0名 |
| 吉城高校 | 16名 |
| 斐太高校 | 1名 |

本年度は、歌会を開催しない代わりに、一般の部は雁部先生から、高校生の部は桐山先生からのコメントを頂きました。今後の参考になさってください。

来年度もご応募をお待ちしております。

課題歌「月」

互選「一 席」

一〇、 槍ヶ岳人を拒みし鎌尾根の刃文の上に月が浮かびぬ

西 春彦

互選「二 席」

三〇、 言い訳も本当のことと言わないで口笛だけを吹きたい月夜

稲泉 真紀

互選「三 席」

二七、 満月に照らしだされし白萩は守る人なき墓に寄りそふ

柴田 恭子

「雁部貞夫先生 推薦」

一〇、 槍ヶ岳人を拒みし鎌尾根の刃文の上に月が浮かびぬ

西 春彦

「刃文」が細かすぎる「刃」で十分。凄味あり。

三八、 伝へ来しわざいさなに勇魚を追ふ民を目守りつつ月の淡くなりたり
上の句ユニーク。下の句「月の」の「の」は不要。

鶴見 輝子

自由歌

互選「一 席」

一〇、 明王の憤怒の相もやわからかに秋の陽浴びる村の石仏

西 春彦

互選「二 席」

二六、 言ひたきこと半分ほどは呑み込みて相づち打ちぬ夫との夕餉

片岡 和代

四三、 急逝せし母がその朝活けしといふ無窮花むぐんふあ一輪枕辺に置く

小林 伸子

「雁部貞夫先生 推薦」

六、 シュワツシュワツと気泡はじけるカルピスのストローが二本恋も弾ける

三尾 幸子

勢いがあり、上等の相聞歌。「ストローが」の「が」不要。ない方がよい。

三九、 打つ、投げる、走る、大谷は夢くるる野球の事は知らぬ吾にも
大谷讃歌。これでよいが、やはり類想が多いテーマ。更に工夫を。

西野 絃子



桐山吾朗 選

「斐太高校」 入 選

若き日の祖父母のアルバム眺むれば幼き父のストロベリームーン

二年

門前

凛音



「吉城高校」 入 選

コロナ禍で中々会えない親友想う同じ満月見ているのかな

三年

山下

祐華

お湯注ぎ月を浮かべて混ぜ溶かすほんのり甘いお月様の味

二年

岡田

千佳

コロナ禍のしんみりとした家の中ひよっこり覗く十六夜の月

二年

加藤

凛

帰り道雲から覗く月明り疲れた心を微かに照らす

二年

三枝

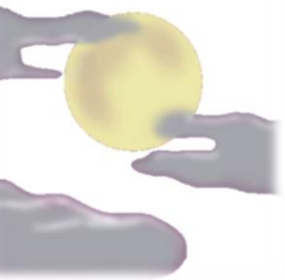
柚奈

満月を一人じめして遊びをり「だるまさんがころんだ」と振り向きて

二年

溝口

史大



選評

今年の学生の部の応募は、二校十七首のみ。前年の応募数の約三分の一弱という結果で、主催する側からの感想を申せば落胆の極みで、寒空にかかる三日月を見るような思いでした。

しかし、応募作は、どの歌も課題の「月」に真摯に取り組んでおり、既成の作法にとらわれない闊達さが小気味よく感じられました。

ただ、今後にわたって作歌を目指す場合、考慮してほしい事柄があります。昨年の選評に挙げた三つの項目を、今年も繰り返したいと思います。

- ① 定型の“調べ”、語句の流れを意識すること
- ② 表現を磨くこと
- ③ 読む人の思いを想定すること

それぞれの内容については、昨年の資料にもう少し深めた内容を記していますので、参考にしてみてください。

昨年の選評を観たい場合は、高山市文化協会ホームページより、道伝えの日・お月見歌会の令和2年度作品一覧をご覧ください。最後に選評が付記されています。

(桐山吾朗 選)